

事業報告

自 2024 年 4月1日
至 2025 年 3月31日

一般社団法人 情報科学技術協会 (INFOSTA)

担務	担当理事
会長	清田 陽司
副会長	江草 由佳、林 和弘
専務理事	吉野 敬子
会誌編集委員会	南山 泰之
研修委員会	澤田 大祐
シンポジウム実行委員会	三枝 央
試験実施委員会	岡安 渉子
西日本委員会	剣持 和江
表彰者選考委員会	白井 瞭
著作権委員会	松下 茂
標準化委員会	安形 輝
創立75周年記念	南山 泰之
3i研究会	山中とも子
研究会運営ワーキンググループ	谷川 淳、増田 豊
コミュニティ形成タスクフォース	三枝 央、沼田 哲史、南山 泰之、山中とも子
リブランディングタスクフォース	白井 瞭、林 和弘、溝口 宗太郎、山田 瑞穂
定款等改正タスクフォース	江草 由佳、澤田 大祐、白須 結人、松田 真美

事業報告全般

2024 年度は、前年度に本格始動した協会運営体制の刷新計画を着実に推進し、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の定着と持続可能な運営体制の確立に向けた取り組みを進めた一年となった。

2024 年度の収入は 32,339,904 円、支出は 35,604,002 円となり、3,264,098 円の赤字となった。依然として赤字ではあるものの、2023 年度の赤字額（7,635,352 円）と比較して、赤字幅は大幅に縮小した。2025 年 5 月に実施した事務局の移転により、運営コストを大きく削減した結果、支出は前年度よりも 5,025,856 円減少し、持続可能な運営体制に向けて前進した。

一方で、会員数の減少等により収入は前年度よりも 654,602 円減少した。また、2023 年度に掲げていた「DX を推進するための事務体制の再構築への投資」の一部が 2024 年度に持ち越されたことや、体制移行に伴う各種追加業務が発生したことも赤字要因として挙げられる。具体的には、事務局の引越・業務引き継ぎ、AI 利活用研究会の立ち上げ、検定試験の全面 CBT 化、INFOPRO シンポジウム予稿の全文 XML 化、創立 75 周年記念事業の準備などの追加業務が並行して実施された。

当協会の持続的発展には、会員基盤の拡充が不可欠である。退会者数は、2012 年度～2015 年度にかけて毎年 100 人超を記録していたのに対し、2024 年度は 77 人に減少。退会率は着実に改善傾向にある。一方、入会者数は、2020 年度に 21 人まで落ち込んだ後、2023 年度は 34 人、2024 年度は 45 人と回復傾向を示している。これらの改善傾向をさらに加速させるべく、「ブランディング」や「コミュニティ形成」に関するタスクフォースを新たに立ち上げ、会員数の増加を促進するための具体的な施策に取り組む予定である。

会員異動

種別	2024 年 3 月末	入会	退会	増減	2025 年 3 月末
維持会員	33	0	1	-1	32
特別会員	62	2	5	-3	59
正会員	616	42	70	-28	588
準会員	3	1	1	0	3
合計	714	45	77	-32	682

社員総会

日時: 2025 年 1 月 8 日 (水曜日)

会場: 日本科学未来館 7 階 コンファレンスルーム金星

議題:

1. 2023 年度 事業報告及び決算報告 (審議)
2. 2024 年度 事業計画及び予算 (報告)
3. 2024～2025 年度 役員選挙
4. その他

理事会

日時: 2024 年 6 月 17 日 (月曜日)

会場: Zoom

議題:

前回議事録 (案) 確認の件

審議事項

1. 社員総会会場の件

2. 2023 年度 事業報告（案）の件
3. 2023 年度 決算報告（案）の件
4. 役員選任の件
5. 情報科学技術協会賞の件
6. 行動指針（案）の件
7. 創立 75 周年記念事業の件
8. 図書館総合展の出展の件
9. Website トップページ更改の件
10. 関連団体 役員選任の件
11. その他

報告事項

1. 事務所移転の件
2. 関連団体 後援等の件
3. 理事会 情報共有の件
4. 会員増加の方策の件
5. その他

日時: 2024 年 12 月 12 日（木曜日）

会場: Zoom

議題:

前回議事録（案）確認の件

審議事項

1. 2023 年度 事業報告（案）の件
2. 2023 年度 決算報告（案）の件
3. その他

報告事項

1. INFOSTA 創立 75 周年の件
2. その他

日時: 2025 年 1 月 17 日（金曜日）

会場: Zoom

議事:

1. 2024 年度 代表理事，会長，副会長及び専務理事の選定について
2. 2024 年度 理事の担当について
3. その他

事業活動

刊行事業

会誌編集委員会

【総括】

2024 年度も安定した刊行(毎月 1 日発行)を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げた。近年の社会情勢・技術動向の変化を反映して「今日の生成 AI 技術の動向について」(8 月号)、「メタバース(仮想世界)の活用」(11 月号)をはじめとする多様なテーマを取り上げた。

また例年どおり、他の委員会と連携した企画を実施した。パテントドキュメンテーション委員会からは「知財情報活用の現在と未来－6 社に訊いた主要機能－」(7 月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第 21 回情報プロフェッショナルシンポジウム」(12 月号)特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、同シンポジウムの口頭発表者への投稿呼びかけを行って頂いた。さらに、2022 年度より開始した TP&D フォーラムとの会誌作成にかかる連携・協力を今年度も実施し、原著論文をはじめとする専門性・学術性の高い記事を掲載することができた(「TP&D フォーラム 2023(5 月号)」)。その他、SIG 部会の活動報告執筆の呼びかけなども継続的に行っており、記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。

【特集】

年	号	特集タイトル
2024	4 月号	研究データ管理の実践に向けて
2024	5 月号	TP&D フォーラム 2023
2024	6 月号	URA 業務の今とスキル認定制度
2024	7 月号	知財情報活用の現在と未来－6 社に訊いた主要機能－
2024	8 月号	今日の生成 AI 技術の動向について
2024	9 月号	知財動向アップデート
2024	10 月号	あらゆる人々に情報を届けるために
2024	11 月号	メタバース(仮想世界)の活用
2024	12 月号	第 21 回情報プロフェッショナルシンポジウム
2025	1 月号	生成 AI 以後の“検索”のゆくえ
2025	2 月号	マシンフレンドリーな情報基盤の整備に向けて
2025	3 月号	2020 年代の海外資料調査・取扱：各館での取り組みを中心に

【その他】

連載として、2023 年度より継続している「実務者のための著作権お悩み相談室」（全 7 回、2024 年度に 2 回分掲載）のほか、新規に「続・オープンサイエンスのいま」（月刊、2024 年度に 9 回分掲載）記事を掲載した。不定期連載である INFOSTA Forum は従前どおり掲載している（2023 年度より会誌編集委員会対応）。

特集及び連載以外の記事としては、原著論文を 2 本、会員からの投稿記事を 15 本、書評を 4 本掲載した。会員からの自主的な投稿を促進するため、2023 年 2 月より非会員からの投稿を受け付け、及び査読基準の公開を実施している。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2024-4-3	定例委員会	Web 会議
2	2024-5-8	定例委員会	Web 会議
3	2024-6-1	定例委員会	Web 会議・東京都立図書館
4	2024-7-3	定例委員会	Web 会議
5	2024-8-7	定例委員会・企画会議	Web 会議
6	2024-9-4	定例委員会	Web 会議
7	2024-10-2	定例委員会	Web 会議
8	2024-11-6	定例委員会	Web 会議
9	2024-12-7	定例委員会・企画会議	Web 会議・国立情報学研究所
10	2025-1-8	定例委員会	Web 会議
11	2025-2-5	定例委員会	Web 会議
12	2025-3-5	定例委員会	Web 会議

【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2025 年 3 月現在 4 名)を置いており、特集企画、連載企画への参画のほか、電子メール、企画会議への参加等を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。

また、DX の観点では、定例委員会の Web 開催、企画会議のハイブリッド(対面&Web 会議)開催が定着した。さらに、プロジェクト管理ツール Backlog を導入し、効率化、定型化、ノウハウの蓄積・継承の観点から、編集作業の改善に着手した。過去の対応事例やマニュアルを検索可能な状態で運用できるようルール整備を進めている。

一方、2023 年度より事務局体制の変更が生じ、書評記事や INFOSTA Forum に係る業務を会誌編集委員会が直接担うこととなった。さらに、2024 年 3 月からは委員会実施に係る事務の

多くを委員会が担うこととなった。上述した編集作業の改善やルール整備を通じて、今後はより一層適切に日常の会誌編集事業を運営していくための体制づくりに努める必要がある。

普及研修事業

研修委員会

【概要】

2024 年度も主にオンラインでの研修となった。

検索技術者検定のリニューアルが行われたため、サーチャーズ講座 21 の刷新が重要な課題であった。コマ数の見直しとモジュール化、プロダクトレビュー、「受講の手引き」の整備などを試みた。

新春セミナーについては、INFOSTA 創立 75 周年にあたってのキックオフイベントとして開催した。

運営面に関しては、委員が引き続き減少傾向にあるため、活動の円滑な継続に足る委員の増強が喫緊の課題である。

【委員会開催状況】

以下の日程で開催した。

第 1 回 2024 年 4 月 22 日、第 2 回 2024 年 6 月 24 日、第 3 回 2024 年 8 月 26 日、
第 4 回 2024 年 10 月 7 日、第 5 回 2024 年 12 月 16 日、第 6 回 2025 年 2 月 17 日
(いずれもオンライン開催)

【活動状況】

- ・ 2024.10.25 「基礎から学ぶ！情報収集・活用術：検索「超」入門 2024」

講師：原田 智子 氏（鶴見大学名誉教授）

オンライン開催

- ・ 2024.9.20～2025.1.31 「サーチャーズ講座 21 ―検索技術者検定 2 級対策―」

講師：棚橋 佳子 氏（東京農業大学）

岡 紀子 氏（近畿大学）

徳田 恵里 氏（紀伊國屋書店）

阿部 潤也 氏（東京歯科大学）

オンライン（オンデマンド配信）開催

- ・ 2025.1.24 新春セミナー「生成 AI 時代における情報専門家のコミュニティ構築に向けて」

パネルディスカッション：清田 陽司 氏（INFOSTA 会長）、南山 泰之 氏（INFOSTA 理事（INFOSTA 創立 75 周年担当）

オンサイト（グレースバリ赤坂）開催

シンポジウム実行委員会

2024 年度 活動状況

INFOPRO 2024（第 21 回情報プロフェッショナルシンポジウム）を 2024 年 7 月 4 日～5 日に国立研究開発法人 科学技術振興機構 東京本部別館（会場参集型とオンライン配信のハイブリッド方式）で開催した。

一般発表数は前回の約 2 倍、参加申込数は過去最大規模の前回（約 400 名）を上回る 500 名に達した。

予稿集は XML 化を行い、会誌「情報の科学と技術」の Special Issue 号として J-STAGE で全文 HTML 形式にて公開した。

- メインテーマ: シン・インフォプロ～AI と再び向き合うときがきた～
- 特別講演: 生成 AI 時代の情報専門家（インフォプロ）への期待（黒橋 禎夫 氏（大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長））
- トーク & トーク: AI 利活用研究会の発足からインフォプロの未来を探る
- 特別企画: OUG ライフサイエンス分科会 文献データベースにおけるデータ収録状況
- 発表: 27 件
- プロダクト・レビュー: 6 機関
- 協賛: 10 機関
- 情報交流会: ハイブリッド方式（オンライン配信は 360 度カメラを利用）
- 参加申込数: 516 人

INFOPRO 2025 に向けての活動

- 開催方法、メインテーマ、特別講演について検討した。
- 発表申込数の増加に伴い、一般口頭発表の受付方法について検討した。
- INFOSTA 創立 75 周年記念事業との調整を行った（関連イベント等）。

試験実施委員会

委員会・各分科会はいずれも Zoom によるオンライン開催となった。

1) 試験実施委員会

① 委員会開催状況と主な議題：

- 第 237 回 (2024-04-04) CBT 化検討、公開解答例
- 第 238 回 (2024-04-24) CBT 化検討、受験案内
- 第 239 回 (2024-05-23) CBT 化検討、受験案内、公開解答例、認定証・認定番号
- 第 240 回 (2024-06-27) 公開解答例、CBT 化の仕様、受験の手引き
- 第 241 回 (2024-07-25) 委員会の体制、試験検討、CBT 化検討
- 第 242 回 (2024-08-27) 試験検討、CBT 化検討
- 第 243 回 (2024-09-25) 試験検討、CBT 化検討
- 第 244 回 (2024-10-16) 試験検討、CBT 化検討
- 第 245 回 (2024-11-26) 2 級 A 日程 合否判定、CBT 化検討
- 第 246 回 (2024-12-17) 試験検討、CBT 化検討
- 第 247 回 (2025-01-21) 1 級一次試験 合否判定、1 級二次試験 実施検討
- 第 248 回 (2025-02-13) 1 級二次試験 実施検討、2025 年度の試験実施検討
- 第 249 回 (2025-02-26) 2 級 B 日程 合否判定、執行部打合せ結果報告、2025 年度の試験実施検討
- 第 250 回 (2025-03-03) 1 級二次試験 合否判定、今後の 3 級試験の実施、2025 年度試験広報検討
- 第 251 回 (2025-03-28) CBT 化の取り組み及び 2024 年度試験実施の振り返り、2025 年度の試験実施検討

② 活動状況

(1) 2024 年度検定試験 実施状況報告

2024 年度の「検索技術者検定」1 級および 2 級は、試験制度を改定し、これまで筆記による解答方式で行われていた試験を、会場型 CBT (Computer Based Testing) 方式に変更した。

制度の改定では、新たに「準 2 級」を設定した。準 2 級は 2023 年度までの「2 級前半試験」に相当し、受験者が希望する全国の会場で、指定期間内に何回でも受験（毎回受験料が必要）できる。合格すれば 2 級試験の受験資格が得られる。

2 級についても、受験者が希望する全国の会場で受験が可能とした。受験機会拡大のため試験日は従来の 1 年に 1 日間から複数日を設定し、受験日を選択できるようにした。合格すれば、2023 年度までの「検索技術者検定」2 級と同じ資格が得られる。

1 級一次試験については、受験者が希望する全国の会場で受験を可能とした。試験日は 2 日間設定し、受験日を選択できるようにした。また、試験内容を論文とプロフィール作成から記述式試験に変更とした。なお、1 級二次の試験方法について変更はない。

(2) 2024 年度の試験日程

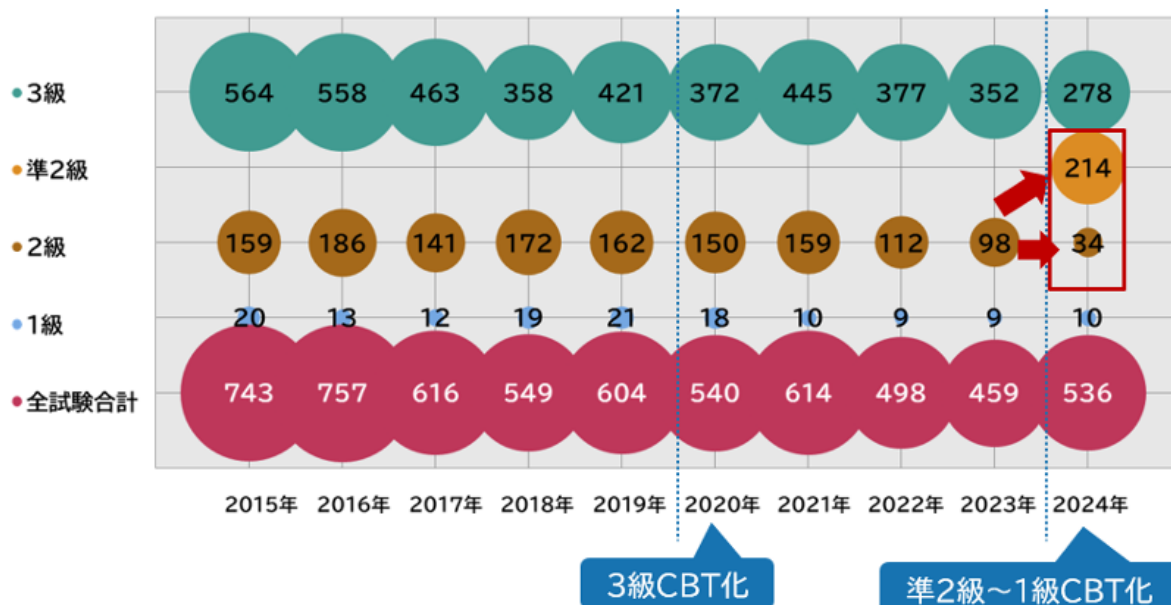
級	申込期間	受験期間
3 級	2024年7月26日(金)～2025年1月30日(木)	2024年8月1日(木)～2025年1月31日(金)
準 2 級	2024年8月7日(水)～2025年1月24日(金)	2024年10月7日(月)～2025年1月31日(金)
2 級 (A 日程)	2024年8月27日(火)～10月21日(月)	2024年10月27日(日)、28日(月)
2 級 (B 日程)	2024年11月26日(火)～2025年1月20日(月)	2025年1月26日(日)、27日(月)
1 級一次	2024年10月15日(火)～12月10日(火)	2024年12月15日(日)、16日(月)
1 級二次	—	2025年3月2日 (日)

(3) 受験者数推移

試験全体の受験者数は前年度(2023 年度)より増加した。3 級受験者は年々減少している。新設した準 2 級は、従来の 2 級の 2 倍超の受験があり、CBT 化の効果が表れた。2 級の受験資格に準 2 級合格が必須となったため、24 年度の 2 級受験者は少なく、年度内に準 2 級、2 級と続けての受験が難しかったと思われる。

年度	総受験者数	1 級	2 級	準2級	3 級
2021年度	614名	10名	159名		445名
2022年度	498名	9名	112名		377名
2023年度	459名	9名	98名		352名
2024年度	536名	10名	34名	214名	278名

(参考) 過去 10 年間の受験者数推移(2015 年度～2024 年度)



(4) 広報関連

- 会誌「情報の科学と技術」、INFOSTA ホームページに試験制度の変更に関する告知や受験案内を掲載した。
 - 2024 年 5 月号 試験制度の変更に関する告知
 - 2024 年 7 月号 受験の手引き・受験案内
 - 2024 年 7 月号 2023 年度 検索技術者検定 1 級・2 級 公開解答例

- 資格関連の Web サイトについて、「検索技術者検定」に関する説明を改定した。
 - 「日本の資格検定」
 - 「資格の王道」
 - Wikipedia「検索技術者検定」
- 2024 年度図書館総合展のポスターセッションに出展し、協会の活動紹介と検索技術者検定試験のポスターを提示した。
 - オンライン 1 期:
 - 2024 年 6 月 29 日～7 月 7 日（オンラインスライド）
 - 会場開催
 - 2024 年 11 月 5・6・7 日
 - パシフィコ横浜 ホール C PS40
 - オンライン 2 期:
 - 2024 年 11 月 16 日～24 日（オンラインスライド）
- 図書館総合展運営委員会発行メールマガジン「図書館総合展からのご案内」2024 年 11 月 4 日号に検索技術者検定 3 級、2024 年 12 月 19 日号にサーチャー講座 21 の案内を掲載した。
参考までに、「図書館総合展からのご案内」には、試験関連のほか下記の案内を掲載している。
 - 2024 年 8 月 9 日 AI 利活用研究会 オープン月次定例会
 - 2024 年 6 月 13 日 INFOPRO 2024（第 21 回 情報プロフェッショナルシンポジウム）2024
 - 2025 年 1 月 16 日号 新春セミナー
- 2025 年 3 月発行の日本図書館協会主催「第 110 回 全国図書館大会 長崎大会記録」の協賛広告へ試験案内を掲載した。
- 下記のイベントにおいて、チラシ配布を行った。
2024 年 9 月 7 日（土）・8 日（日）麗澤大学 柏キャンパス Code4Lib JAPAN カンファレンス 2024

(5) 委員拡充方策の検討

2024 年度は 1 名の試験実施委員の増員があった。引き続き作問委員、実施委員の増員方策の検討を継続している。

2) CBT 分科会

① 委員会開催状況と主な議題

2024 年 10 月 09 日 J-Testing システム関係、3 級受験状況、図書館総合展ポスターセッション出展

2025 年 03 月 11 日 J-Testing システム関連、3 級試験受験者データ分析、2025 年度試験関連

② 活動状況

広報関連：以下を実施した

- 2021-2023 年度に実施した、維持会員、特別会員のほか、司書講習開講大学、大学の司書課程で特に情報検索の内容を主に担当している大学の教員宛ての DM 送付について、2024 年度は実施しないことにした。
 - ウェブサイト、3 級の A4 チラシ更新
 - 広報委員会の協力のもと SNS (X (Twitter) 、Facebook)にて随時情報発信
- 執行部および事務局と連携し、申し込み状況の把握と対応の検討、問い合わせ対応、システムの設定変更、契約更新の手続きを行った。

その他 委員会活動・プロジェクト

西日本委員会

1. 委員会開催状況

2024-04-26:第 224 回西日本委員会 (Zoom によるオンライン会議)

2024-06-27:第 225 回西日本委員会 (Zoom によるオンライン会議)

2024-09-05:第 226 回西日本委員会 (Zoom によるオンライン会議)

2024-11-01:第 227 回西日本委員会 (Zoom によるオンライン会議)

2025-02-24:第 228 回西日本委員会 (Zoom によるオンライン会議)

2. 活動状況

2024-12-13:見学会 (泉大津市立図書館 シープラ) 参加者 9 名

※例年行われている「人と情報をつなぐ西日本インフォプロ交流会」(旧じょいんと懇話会)は、開催時期・方法も含めて継続検討中。

表彰者選考委員会

2024 年度第 49 回協会賞選考について、2024 年 3 月 28 日の第一回委員会、第二回 4 月 16 日、第三回 4 月 23 日、第四回 5 月 14 日、第五回 5 月 28 日を開催し、下記 14 名の第 49 回協会賞候補者を選考し、6 月 17 日の理事会に提議した。奨励賞は当年度が初めての選考であった。

○情報業務功労賞

川本 敦子（株式会社東芝）

○教育・訓練功労賞

山本 昭（愛知大学）

○研究発表賞

安藤 俊幸（花王株式会社／アジア特許情報研究会）

○協会事業功労賞

川越 康司（株式会社ジー・サーチ）

○協会事業功労賞

南山 泰之（大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所）

○奨励賞

竹居 祥行（日本化薬株式会社）

○奨励賞

杉本 和繁（ミヨシ油脂株式会社）、長谷部 雅彦（株式会社バッファロー）、伏見 祥子（特許業務法人 IPX）、永岡 美雪（アズテック株式会社）

○事務局永年勤続者賞（40 年）

鈴木 吉之

○永年会員推挙

木村 美実子

川村 剛

長塚 隆

2025 年度に向けての推薦募集は、2025 年 1 月号会誌およびメルマガにて行った。推薦の方法は、ウェブページから募り、会員からの推薦は 2025 年 2 月 15 日をもって締め切られたが、会員からの推薦は 5 件あった。

著作権委員会

1. 委員会開催状況

- 2024 年度第 1 回委員会 6 月 4 日（火）17:00-18:00 オンライン開催
- 2024 年度第 2 回委員会 6 月 11 日（火）19:35-20:30 オンライン開催

2. 活動状況（理事会に報告すべき事項）

- 2024 年度は、文化庁著作権課による「著作権法施行令の一部を改正する政令(案)」に関する意見募集（パブリックコメント募集）に意見書を提出した。
- 本パブリックコメントは、著作権法 31 条 1 項 1 号による複製サービスと、いわゆる「図書館等公衆送信サービス」において、例外的に全部の複製が認められる著作物を、著作権法施行令で定めているが、その種類を増やすための改正。
- 意見書では、今回の改正による著作権の一部分と付随して複製される部分の範囲について、これまでの「複製物の写り込みに関するガイドライン」や「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」とどう違うのか分かりにくく、複製箇所の範囲が狭められる可能性が懸念されることなどを主旨とした。
- また、図や表などが複数ページまたは別ページに記載されている場合の判断についても明示を求めた。
- 意見提出は、委員会で案を作成して執行部の承認を得て 6 月 22 日に提出した。
https://www.infosta.or.jp/posts/pc_opinioncontext_20240622/
- また専門図書館協議会著作権委員会とは情報の交換をメールベースで行い、本件について情報交換を行なった。

標準化委員会

1) 標準化委員会開催: 1 回（オンライン）2024-09-11

2) 国際標準化 ISO/TC 37 および TC 46 の国内審議

- ISO/TC 37, ISO/TC 46 の国内審議団体の事務局としての活動
- 令和 6 年度 経済産業省 国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費補助金「デジタルデバイド解消とパーソナルデータ活用のための対話 AI のガバナンスに関する標準化の調査」
- 令和 6 年度 経済産業省 政府戦略分野に係る国際標準開発活動「用語エントリに関する標準化活動」

3) JIS 策定

- JIS X 30302:2025 記録のマネジメントシステム－実施の指針【制定】
- JIS X 30301:2025 記録のマネジメントシステム－要求事項【改正】

4) JIS 見直し

- JIS X 0304:2021 国名コード【暫定確認】
- JIS X 0307:2021 国際十進分類法（UDC）【暫定確認】
- JIS X 0701:2005 情報及びドキュメンテーション－用語【確認】
- JIS X 0803:1995 会話型テキスト探索用コマンド【確認】
- JIS X 0808:2001 図書館相互貸借応用のサービス定義【廃止】
- JIS X 0809:2001 図書館相互貸借応用のプロトコル仕様－第 1 部：プロトコル仕様【廃止】
- JIS X 0836:2005 ダブリンコアメタデータ基本記述要素集合【暫定確認】
- JIS X 0901:1991 シソーラスの構成及びその作成方法【暫定確認】
- JIS Y 17100:2021 翻訳サービス－翻訳サービスの要求事項【確認】

研究活動

日本オンライン情報検索ユーザ会 (OUG: Online Users Group)

ライフサイエンス分科会

(主査：廣谷 映子 氏、第 410 ～418 回；計 9 回開催、開催月と内容)

- 4 月 JDream SR 新機能などの紹介
- 5 月 INFOPRO 準備①
- 6 月 INFOPRO 準備②
- 7 月 第 21 回情報プロフェッショナルシンポジウム INFOPRO 2024 内 OUG 企画 ”文献データベースにおけるデータ収録状況 -MEDLINE Embase Scopus Web of Science CAplus Dimensions JSTPlus を対象に LANCET を例に検証する -”
- 9 月 2024 年 JST シソーラス改訂
- 10 月 リニューアルされた iyakuSearch
- 12 月 学術文献に関わる著作権について
- 1 月 オープンアクセスの最新動向と Wiley の取り組み
- 2 月 Scopus AI

専門部会 (SIG: Special Interest Groups)

技術ジャーナル部会

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

- 6 月度
 - 著作権について
 - Web サイトの相互連携について
 - 社内プロモーションについて
- 10 月度
 - 技報の執筆ルールについて
 - 技報掲載記事の転載について
- 2 月度
 - 成功事例の共有と未来の技術広報・情報発信に対するアイデア共有について

パテントドキュメンテーション部会

(会員: 4 名 コアパースン: 桐山 勉 氏 毎月開催)

1. INFOPRO 2024 において、一般口頭発表として「代替食と未来の食品供給に関する特許分析—代替肉などの代替食の課題の解の特許情報から探る」の 1 件を発表した。
2. 外部知的財産団体への協力：INFOSTA-パテントドキュメンテーション委員会に 1 名参加派遣。

会誌「情報の科学と技術」7 (7)の特許特集号の企画に参加。

(2024 年 11 月にパテントドキュメンテーション委員会解散)

3. メンバー間のトピックス情報の交換

米国 PIUG 2024 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。

その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加したものの関連情報を相互紹介。

4. プロバイダーデモ勉強会への参加と実施。

アイ・ピー・ファイン社の知財 AI 活用研究会（第 7 期）にメンバーの一人が顧問 Adviser として参加した。

5. ポストコロナでも、テレワークの Zoom 形式で、PDG 部会を毎月実施した。

2024 年 4 月から 2025 年 3 月まで、毎月、PDG 部会を Zoom 形式で 2 時間実施し、SIG 開催報告を事務局に提出した。

(コアパーソン：山崎 久道 氏 6回開催)

以下の6回、会合を開催し、前半は、シソーラスについての議論、後半は索引作業の自動化などのトピックを扱った。

回	開催日	テーマ	会場
1	2024/5/17	・ JST シソーラスの改訂についての JST からの返答などにつき 討論 ・ 日経シソーラスについての検討方法の再確認	愛知大学 霞が関オフィス
2	2024/7/19	「日経シソーラス、ここが変だよ」全50頁（各自が日経シソーラスから、分野を特定せず、「これがおかしい」「これおもしろい」という事項を5つくらい探してみてコメントする、をまとめたもの、について討論	愛知大学 霞が関オフィス
3	2024/9/20	・ INFOSTA 標準化委員会からの要請もあり、シソーラスについての規格についてその改訂等につきまとめて議論（議論した規格等：ISO 25964-1 DIS、JIS X 0901、JIS X 0370、ISO 999、SIST13）	愛知大学 霞が関オフィス
4	2024/11/15	・ ISKO Encyclopedia of Knowledge Organization の Indexing. Concepts and theory の項目（Birger Hjørland 執筆）の紹介と討論	愛知大学 霞が関オフィス
5	2025/1/17	・ 生成 AI による索引作業の評価 ・ MEDLINE の自動索引作業についての説明と質疑応答	愛知大学 霞が関オフィス
6	2025/3/21	・ ハラリ「NEXUS 情報の人類史」の紹介。内容についての若干の議論。来年度、批判的に読むことを決定。 ・ ChatGPTによる日経シソーラスを使ったインデクシングの試行的実験。来年度の本格化の可否について討論。 ・ 来年度日程の決定。本年度を同様に6回開催予定。	愛知大学 霞が関オフィス

ターミノロジー部会

(部会員：4名 コアパーソン：長田 孝治 氏 年5回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実務に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催である。

2024年度は ISO 10241-2:2012 (Terminological entries in standards — Part 2: Adoption of standardized terminological entries) の ISO における改訂が決議されたため日本における改訂要望事項などの意見交換を主体に5回(5月、7月、10月、12月、2月)実施した。ISO 10241-2:2012 は日本提案が母体となって制定された規格であるが、事例が少ないなど改定要望が各国から寄せられているため、外部有識者を交えて改訂すべき事項の検討を実施し、ISO 国内審議委員会への情報提供を行った。

研究会

3i 研究会

1. 研究会開催報告：

2024 年 4 月、5 月は第 10 期、6 月から 2025 年 3 月までは第 11 期の活動を行った。

毎月第 3 木曜日（18:30-20:30）を基本として、すべてオンラインで 12 回開催した。

2. 活動状況

- 第 10 期は 9 名、第 11 期は 10 名の参加者で、各々 3 グループで活動した。
- サポーターにはグループの活動をサポートするだけでなく、毎回スキルアップのためのミニ講義を開催していただき、有意義な活動をすることができた。
- データベースは前年に引き続き JDreamIII、JDream Innovation Assist（文献検索データベース、論文・特許・新聞記事検索・分析データベース：(株)ジー・サーチ）、パテントマップ EXZ（特許解析ソフト：インパテック(株)）、CKS Web(特許検索システム：中央光学出版(株))を無料で貸与していただき、研究活動に活用させていただいた。
- 第 10 期の研究成果は、INFOPRO 2024 で発表するとともに、1 グループは会誌「情報の科学と技術」に投稿した。第 11 期の成果は INFOPRO 2025 で発表予定である。

AI 利活用研究会

INFOSTA AI 利活用研究会は、2023 年度に実施されたミートアップでの議論を契機として、2024 年 4 月より本格的な活動を開始した。本研究会は、急速に進展する AI 技術が情報科学技術の実務、研究、教育に及ぼす影響について検討し、AI の適切な利活用の在り方を多面的に探ることを目的としている。

活動の中核をなすのは月例会であり、毎回、参加者が多様な AI ツールの活用事例を持ち寄って共有するとともに、AI ツールの効果を最大限に引き出すために人間に求められる「態度」や「関与の仕方」について、活発な議論が行われた。これにより、単なるツール紹介にとどまらず、人と AI との協働に関する本質的な視点が深まった。

こうした知見をまとめた研究成果は、2024 年度の INFOPRO シンポジウムにて発表を行い、幅広い参加者との対話を通じて社会実装に向けた展望を共有した。

さらに、研究会の活動をより多くの方々に知ってもらい、参加を促すことを目的として、外部講師を招いたスペシャルイベントを二度開催した。第一回は 2024 年 10 月 23 日にゲーム AI 研究の第一人者である三宅 陽一郎氏をお招きし、「メタバースからみた生成 AI のインパクト」と題した講演を実施した。第二回は 2025 年 1 月 22 日に人工生命研究者の岡 瑞起氏を迎え、「生成 AI が切り開く創造の可能性」をテーマに、創造と AI の関係について多角的な議論が交わされた。